

題材名

手ぬいで自由自在！家族が喜ぶ小物入れを作ろう

「ひと針に心をこめて」

【生活の営みに係る見方・考え方】 快適・安全 生活文化の継承・創造

令和4年6月9日（木）6校時

1 題材について

<題材について>

「B衣食住の生活」

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

ア (ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画

(イ) 手縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い

イ生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫

<児童について>

	よく当てはまる	当てはまる
家庭科は好きですか。	42.5%	57.5%
家庭科は生活に役立つと思いますか。	90%	10%
手縫いで何か作ったことがありますか。	52.5%	47.5%
<児童が作ったことのある物> 小物入れ、ティッシュケース、人形		

アンケートから、本学級の児童は、家庭科を肯定的に捉えていることが分かった。手縫いについては、約半数の児童が初めての学習のため、習熟するための時間の確保と製作意欲を高める手立てが必要であると考えます。

<指導にあたって>

手縫いを自分の生活に生かしたという児童の気持ちに寄り添いながら、学習で得た知識・技能などを生活で活用できるように「家族が喜ぶ小物入れを作ろう」という題材を設定し、以下の工夫を行う。

【課題を自分事とする工夫】

- 児童が主体的に学習を進めることができるよう、課題を児童と共に設定し、学習の見通しがもてるようにする。その見通しのもと、知識・技術の習得場面では課題解決に必要な知識及び技術を身に付けさせる。
- 基本的な縫い方について学習した後、「すぐに使える小物入れは誰が何を入れる時に使うのか」という課題に沿って製作計画を立てさせる。それにより、児童が自らの生活を振り返り、自分なりに課題を設定することにもつながる。

【学び合いの工夫】

- 通信等で家庭と連携し、家庭学習で児童が手縫いをしている様子を見てもらい、意見やアドバイスをもらえるようにする。
- 小物入れについて検討する際、作りたい形によってグループ化し、グループ内で製作計画の作成や見直しについて話し合いをさせていく。

【学習評価の工夫】

- ICTを活用し、題材の始めと終わりで縫い目を写真に撮って比較することや、題材の終わりに自らの製作を自己評価する上でグラフ化することで、実践を評価・改善できるようにする。
- 評価表（ルーブリック）を児童と作成し、共有するとともに、ポートフォリオを活用することで、子供達自身が学習の状況を把握できるようにする。

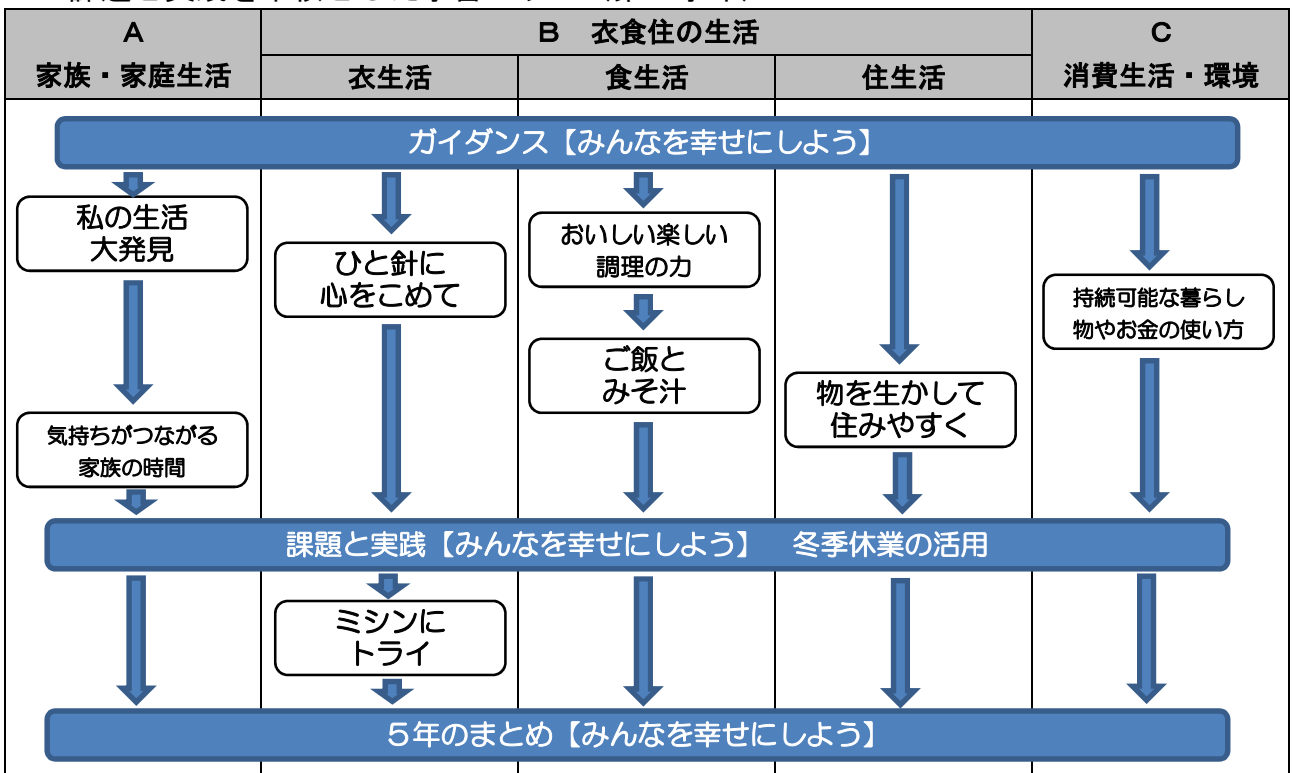
2 題材の目標

- (1) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解するとともに、手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、それらに係る技能を身に付ける。 [知識及び技能]
- (2) 生活を豊かにするための布を用いた小物の製作計画や製作について問題を見出して課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画を立てることができる。 ②手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見出して課題を設定している。 ②様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4 課題と実践を中核とした学習マップ（第5学年）



5 指導と評価の計画（全 11 時間）（本時 5 / 11 時間）

学習過程	○学習活動 ・学習内容 ●本時	○指導上の工夫	評価規準・評価方法 (評価方法)
	○裁縫道具に入っている用具とその使い方，玉止め・玉結びについて知る。	・児童全員が本題材で作品作りを行えるよう，帯タイムを活用し基本的な技能の習熟を図る。	
(1) 生活の課題発見	○学習の見通しをもつ。(1) 「針と糸を使ってできることを見つけよう」 ・自分の家庭生活と関連付けながら発表し合う。 ・背守りや着物の身上げについて知り，手縫いの文化について理解する。	・身の回りの布製品を観察させ，そのよさや特徴について気付かせる。 ・背守りや着物の身上げについて紹介し，昔の人々の知恵や思いを理解できるようにする。【ICT】	
(2) 解決方法の検討と計画	○手縫いによる縫い方を理解し，練習する。(3) 「背守りにチャレンジ！」 ・なみ縫い，返しぬい，かがり縫い ・ボタン付け 「家族が喜ぶ小物入れを作ろう」 ●評価表を作成するとともに，小物入れの製作の見通しをもつ。(1) 【本時】 ・小物入れのイメージ図 ・色，形，背守り ○小物入れの細かい製作計画を立て，材料の用意をする。(1) ・材料（型紙，フェルト）・用具・手順	・簡単な背守りを手縫いし，縫い方の習熟を図るとともに，製作への意欲を高める。 ・縫い方の習熟場面では，縫い方の動画を見て確認させたり，友達の縫い方を写真に撮って参考にさせたりする。【ICT】 ・家族が喜ぶ小物入れの製作にあたって，評価表を児童と作成し，共有する。それをもとに今後の製作活動で形成的評価を児童自身も行う機会を設け，児童の課題を解決する力の育成を図る。 ・実物見本を参考にさせながら製作の見通しがもてるようにする。 ・ペアやグループでの対話により，家族への思いや工夫する所を交流させ，計画の見直しや実践について学び合えるようにする。 ・前時の見通しをもとに，フェルトの大きさや手順などを計画・準備させる。その際，児童が正確にフェルトを裁断できるよう，厚紙の方眼紙で型紙を作らせる。	【思考・判断・表現①】 手縫いの小物の製作について問題を見出して課題を設定している。(ワークシート，行動観察，振り返りシート) 【知識・技能①】 製作に必要な材料や手順が分かり，製作計画について理解している。(ワークシート，行動観察)

<p>(3) 解決方法に向けた実践活動</p>	<p>○製作計画をもとに小物を製作する。(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで教え合う際、安全に気を付け、縫っている友達の近くに近付かないこと、針先を人に向けていないことを繰り返し指導する。 ・児童が評価表に沿って製作を行えるよう、友達同士で縫い方のアドバイスを交流させる。また、必要に応じて、教師による示範や動画の視聴を適宜取り入れる。 ・毎時間振り返りを行い、製作について児童自らが評価・改善できるようにする。 	<p>【知識・技能②】 手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 (作品, 行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現②】 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (製作計画, 行動観察, 振り返りシート)</p>
<p>(4) 実践活動の評価・改善</p>	<p>○製作について評価・改善を行うとともに、本題材で学習してきたことを振り返る。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・でき上がった作品の写真を見せながら、縫い方の工夫と、うまくいったこと・改善点について発表させる。【ICT】 ・題材の始めと終わりで評価表に沿って自己評価をさせ、グラフ化することで自らの成長を可視化する。【ICT】 ・評価表に沿って題材の振り返りをさせ、自らの製作に関わる成長について実感させるとともに、今後の課題や生活に生かしたいことを交流させ、実践への意欲を高める。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。(振り返りシート)</p>
<p>【期待する題材の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小物入れは、～君がカード入れを作っていて使いやすそうだった。針と糸と布があると、生活を豊かにする物が作れることが分かった。(手縫いのよさ) ・始めはなみ縫いがまっすぐ縫えなかったけれど、最後には上手に縫えるようになり、仕上がりがきれいになった。(製作に係る成長への気付き) ・丈夫にするためには返し縫いをすればいいことが分かったので、帽子のひもが取れた時など、自分で縫ってみたい。(目的に応じた縫い方についての理解, 実践への意欲) 			

6 本時の展開

(1) 本時の目標

製作する小物入れについて、具体的に考え、家族が喜ぶ小物入れの製作に見通しをもつことができる。

(2) 評価基準

評価	評価規準
A	小物入れの製作の見通しをもつことができている。さらに、工夫する点についてこれまでの学習と結び付けて考えることができている。
B	小物入れの製作の見通しをもつことができている。

(3) 本時の展開

学習活動 「主な発問」(思考の場) ・予想される児童の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	○評価規準 (評価方法)
1. 学習の見通しをもつ。		
<p>㊦ 家族が喜ぶ小物入れを作るために製作の見通しをもとう。</p>		
2. 製作する小物入れについて考える。(個人→ペア) ・作ってあげたい人 ・小物入れで工夫したいところ ・出来上がりのイメージ図	<p>◇「いつ誰が何を入れるのか」という視点をもとに、作ってあげたい人への思いやそのための工夫ができるようにする。</p> <p>◇簡単な小物入れの画像を観察させることで仕上りの大きさや形、色などについてイメージができるようにする。【ICTの活用】</p> <p>◇児童に2色のフェルトを選ばせ製作させていく。フェルトを選択するために家族にインタビュー活動をしたという意見が出るのが考えられる。家族の好みに合った小物入れを作りたいという児童の気持ちに寄り添い、イメージ図は製作の過程で変更してもよいことを伝える。</p> <p>◆小物入れの出来上がりのイメージ図が考えられない児童には、実物見本をもとに友達と交流させる。</p>	

<p>3. 評価表を考える。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕上がり ・丈夫さ ・手際よさ ・心をこめているか ・家族が喜んでくれたか <p>4. 次時の学習について知り、それまでにしておくことについて見通しをもつ。</p> <p>5. 学習のまとめと振り返りをする。</p>	<p>◇「どんな小物入れだと喜んでもらえるのか」という評価の視点を児童と作成することで、今後の製作にあたって目標を明確にもたせるとともに、製作過程で相互に形成的評価を行い学び合えるようにする。</p> <p>◇製作計画をワークシートで俯瞰させ、振り返りをさせることで見通しをもって製作を行おうとする態度を育てる。</p> <p>◇評価表に沿ってどのように小物の製作をしていきたいか振り返りに書かせる。</p>	<p>○手縫いの小物の製作について問題を見出して課題を設定している。 (ワークシート, 行動観察, 振り返りシート)</p>
--	--	--

(3) 板書計画

6/9ひと針に心をこめて

④ 家族が喜ぶ小物入れを作るために製作の見通しをもとう。

【小物入れ】

- ・材料

作品の写真

〈作ってあげる人への思い〉

- お父さんに財布
- お母さんにポーチ

〈製作計画で工夫すること〉

大きさ, 色, 形, 模様
ぬい方

★背守りをしたい
家族にインタビュー

評価表

④家族が喜ぶ小物入れを作るためには、評価表の内容に気を付けて心をこめて作ることが大切である。